

# 当院では内視鏡検査（胃・大腸）時に AI（人工知能）内視鏡システムを導入致しました。

当院では

『熟練の医師』と『AI（人工知能）』の両方向によるダブルチェック機能により病変の見逃しを極限にまで防止して参ります。

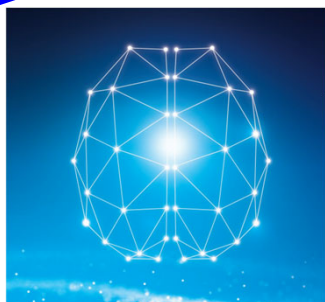
## ※AI内視鏡導入によるメリット

- 熟練の医師でも検出困難な微小病変に対してもAIシステムを使用し、ポリープ・大腸がんなどの病変候補を内視鏡検査中にリアルタイムで検出できます。
- 病変部は鑑別結果に応じて異なる色で表示されるため、医師は、より早く・正確に視認できます。
- 病変を発見すると、画面の表示と音で内視鏡医に知らせます。
- 見逃しリスクを低減し、がんの早期発見に役立ちます。

2024年9月時点

川崎市  
“初”の導入

# 当院採用の大腸AI内視鏡システム



OLYMPUS®

【後ろ向き性能評価試験結果】 オリンパス社資料より

## 「EndoBRAIN-EYE」

大腸内視鏡検査中の画像をAIが解析し、ポリープ・がんなどの病変候補を検出するとリアルタイムに音と画面上の色で警告し、検出位置を枠で表示します。

動画データから抽出した内視鏡内視鏡画像を学習することで、大腸病変の検出において感度96.0%、特異度98.0%の診断支援精度を実現しました。

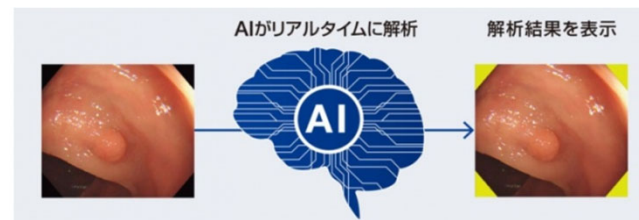
## 「EndoBRAIN-X」

粘膜表層の毛細血管やそのパターンなどを強調して映し出すNBI（狭帯域光観察）モードで撮影された大腸内視鏡画像をAIが検査中にリアルタイムで解析することで、腫瘍・非腫瘍の可能性を表示します。大腸病変の診断において、病理診断が腫瘍性である病変に対する感度97.9%※7の診断支援精度を実現しています。

## 内視鏡画像診断支援プログラム EndoBRAIN-EYE

### リアルタイムに病変検出をサポート

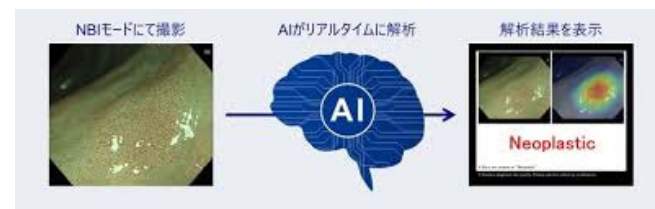
大腸内視鏡検査中の画像をAIが解析し、ポリープ・がんなどの病変候補を検出するとリアルタイムに音と画面上の色で警告し、検出位置を枠で表示します。リアルタイムの支援により医師の病変検出をサポートします。



## 内視鏡画像診断支援ソフトウェア EndoBRAIN-X

### リアルタイムに腫瘍・非腫瘍の判別をサポート

汎用スコープで撮影されたNBI画像をAIが解析することでリアルタイムに腫瘍・非腫瘍のいずれかを予測し、結果を表示します。リアルタイムの支援により医師の腫瘍性病変の判断をサポートします。



2024年9月時点

神奈川県  
“初”の導入

# 当院採用の胃AI内視鏡システム



gastroAI™

## 【性能評価試験結果】 AIメディカル社資料より

胃内視鏡検査により得られた上皮性腫瘍が疑われる胃内視鏡画像315病変（腫瘍性病変150・非腫瘍性病変165）を用いた後ろ向き性能評価試験を実施した結果、腫瘍性／非腫瘍性の検出における本製品の感度は84.7%、専門医は65.8%でした。特異度は本製品で58.2%、専門医で68.8%でした。

また、上皮性腫瘍が疑われる正常粘膜を含む非腫瘍性と判断された800病変を用いた単体性能試験では、本製品の検出における特異度は90.1%でした。

## 内視鏡画像診断用ソフトウェア



gastroAI™

gastroAI™ model-Gは、内視鏡検査中に肉眼的特徴から生検等追加検査を検討すべき病変候補を検出し、医師の診断補助を行う内視鏡診断支援ソフトウェアです。

2024年9月時点